TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神さまの知恵 私の報酬

コリントの信徒への手紙 9 章1節…18 節

2025 年 4 月 26 日 & 27 日

余沢 武 牧師

I. イントロダクション

こんにちは。今日はコリントの信徒への手紙一の学びに戻ります。2 週間前、偶像に捧げられた肉は、たとえ彼らが唯一の神の存在と、偶像は本当の神ではないことを知っていたとしても、食べることを控えるようにと、パウロがコリントのクリスチャンたちに言っているのを見ました。多神教の人たちと同様の行いで交わりを待つ弱い兄弟たちに彼らがつまずかないようになるでしょう。

パウロは、もし肉を食べることが兄弟に罪を犯させるのであれば、肉を食べるのを完全に止めた方がいいと言いました。今日は、このパウロがこの原理をどのように彼自身の人生に応用するかを見ていきましょう。

最初に、祈りましょう。

II. 私の報酬

(1)権利対耐え忍ぶこと

第一コリントの信徒への手紙 9 章 1 節から 2 節です。

「私は自由な者ではないか。使徒ではないか。私たちの主イエスを見たではないか。主にあるあなたがたは、私の働きの実ではないか。 他の人々にとって私は使徒でなくても、あなたがたには使徒です。主にあるあなたがたが、私が使徒であることの証印なのです。」

肉を食べる自由を求める人々に向かって、パウロは「私は自由な者ではないか」といいました。

パウロは思っていました、私は「イエスを見た」そしてコリント教会を設立した「使徒」として教えている---あなたがたは「私の働きの実」であり私が使徒であることの「証印」なのです。

古代において、穀物や商品を送り出すとき、容器には封印が施され、封印の下にあるものが本物であることを保証しました。パウロによって計画されたコリント教会は、パウロがイエスによって遣わされた本物の「使徒」であることを保証する封印でした。

3 節-7 節です。「私を批判する人たちには、こう弁明します。 私たちには、食べたり飲んだりする権利がないのですか。私たちには、他の使徒や主の兄弟たちやケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。あるいは、私とバルナバだけには、働かずにいる権利がないのですか。 一体、自費で兵士になる者がいますか。ぶどう畑を作って、その実を食べない者がいますか。羊の群れを飼って、その乳からできたものを食べない者がいますか。」

使徒として、彼は「食べたり飲んだりする権利」、つまり教会から食事を与えられる権利と、「信者である妻を連れて歩く権利」を持っていましたが、彼とバルナバはそれを行使しませんでした。

というのは、これらのことは常識だからです。 兵士は軍隊によって養われる。ぶどう園を作る者はその実を食べる。 羊飼いは自分の群れの乳を飲む。

8 節-9 節です。「私がこう言うのは、人間の思いからでしょうか。律法も言っているではないですか。モーセの律法に、「脱穀している牛に、口籠をはめてはならない」と書いてあります。神が心にかけておられるのは、牛のことですか。」

モーゼの律法、申命記 25 章 4 節には「脱穀している牛に、口籠をはめてはならない。」とあります。ただの常識としてだけではなく、モーゼの律法でも言っているのです。牛は働いている時は自由に食べるべきだと。

10 節-11 節です。「それとも、私たちのために言っておられるのでしょうか。もちろん、私たちのためにそう書かれているのです。なぜなら、耕す者は当然、望みを持って耕すべきであり、脱穀する者は分け前にあずかる望みを持って脱穀するからです。 私たちがあなたがたに霊のものを蒔いたのなら、あなたがたから肉のものを刈り取るのは、行き過ぎでしょうか。」

パウロの結末には、「霊のものを蒔いた人」または神の民に仕える人たちは、神の民から「物質的な恩恵」または支払いを受けるべき、とあります。

以前、私が TBC のグレースルームにいたとき、ある人が入ってきて、私に他の教会の悪口を言い始めました。他の教会の牧師たちは教会から給与をもらっているので、全てはお金のためなのだと言っていました。私は、TBC も牧師を支えていますよ、これはパウロ自身が教えていることですから、とその人に言いました。
それを聞いた瞬間、彼は TBC を批判し始めました。そしてかれは去り、二度と戻ってきませんでした。しかしこれはパウロが教えていることで、全ての皆さんによる TBC の惜しみない献金が TBC の牧師とスタッフを支え、私たちが神に仕え、教会に仕えることに集中できるようにしてくださっていることに感謝しています。

12 節です。「他の人たちが、あなたがたに対するこの権利にあずかっているのなら、私たちはなおさらそうではありませんか。しかし、私たちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を妨げないように、すべてのことを耐え忍んでいます。」

彼は「私たちはこの権利を使いませんでした」「かえってキリストの福音を妨げないように」と言いました。パウロの奉仕を読むと、教会から支援される「権利」があっても、パウロはそれを使うときもあれば、使わないときもあることに気付きます。パウロによれば、最も重要な要素はそれが「キリストの福音」を妨げるか、否かということです。

クリスチャンとして、自分たちの「権利」を重要視する代わりに「福音の働き」--福音によって私たちがどのように変えられ、どのように他者が変わる手助けができるか、を重要視しなくてはなりません。
これは「彼らの権利」の問題ではなく「福音の働き」の問題であるため、パウロは、彼らが唯一の神の存在を知っていたとしても、偶像礼拝に使われる肉を食べる権利を放棄するよう言いました。
これは「私たちの権利」の問題ではなく「福音の働き」の問題であるため、私たちは偶像や亡くなった親族の位牌の前で神に祈りをささげる権利を、たとえ自分たちは神に祈っているのだと知っていても、放棄しなければならないと、2週間前に学びました。
これは「彼の権利」の問題ではなく「福音の働き」の問題であるため、パウロは自分にはコリントの人々から支援を受ける「権利」があるとわかっていましたが、その「権利」を放棄しました。
この理由により、古代ローマ時代においては、裕福な人が誰かに贈り物をすると、その人は「パトロン」になり、贈り物を受け取った人は「クライアント」になります。そして義務が生じます。パウロはそのような関係を避けていたようです。

「クライアント」のために、好むような地位や影響力、または教会での指導的な役割を与えることを期待されてしまいます。ほとんどの場合、このような裕福な人々が異教の神殿で行われる行事や食事に招かれる対象でした。
パウロは、自分の福音の働きに影響が出ないように、彼らの贈り物を断ったようです。私たちが自分の「権利」や「欲求」を重視すると、「福音の働き」から目をそらしてしまうことをパウロは知っていました。

先日、私は家族と私の子供の頃の話をしていました。1970 年代、私はアメリカのニュージャージーに家族と住んでいました。話をしながら、当時は、今日あるような性的不道徳についてあまり聞かなかった、と考え始めました。
人々はそれを好まない、また従いたくないかもしれないが、男女の結婚以外の性行為が不道徳であることは、誰もがなんとなく知っていました。私は私と同じ世代の人々の理解が、どうしてこんなにも大きく変わってしまったのだろうと思うようになりました。

最初、その変化が起きた時を特定しようとしましたが、できませんでした。しかし、問題はずっとそこにあったということに気付きました。私たちは今日行う不道徳なことについて考えていないかもしれません、しかし、神のことも考えていなかったのです。私たちは現代の人たちと同じように神から離れていたのです。ただ、その表現が違っていただけなのです。

それは錨を失った船が漂流し、最後に岩にぶつかるようなものです。問題は岩にぶつかったときに始まったのではありません。漂流しているときにそこにあったのです。ただ、悪いように見えなかっただけです。

錨、つまり福音を失ったときに始まっていたのです。70年代でさえ、私たちは福音に錨を下ろしていませんでした。

実際、もしそうであったなら、70年代の私たちの人生はまったく違ったものになっていたでしょう。それと同じように、もし私たちが今日、自分の人生の錨を福音に置き始めるなら、私たちの人生もまったく違ったものになるでしょう。

これがパウロの人生に見られるものです。それは「権利」や「欲求」のことではありません。彼と他の人々における「福音の働き」のことです。これに注意しなければ、私たちは常に「権利」や「欲求」のことで漂流することになるでしょう。

13節-15節「あなたがたは知らないのですか。神殿で働く人は神殿から下がるものを食べ、祭壇に仕える人は祭壇の供え物にあずかります。同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の糧を得るようにと、命じられたのです。しかし、私はこれらの権利を一つも用いませんでした。こう書いたのは、自分もそうしたいからではありません。そうするくらいなら、死んだほうがましです……。私のこの誇りは誰も奪うことができません。」

「権利」について旧約聖書でも言っています、「司祭は神殿から下がるものを食べ」
「主」も言われています「福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の糧を得るように」。
にもかかわらず、パウロはこれらの「権利」を何一つ使いませんでした。

16節-17節「もっとも、私が福音を告げ知らせても、それは私の誇りにはなりません。そうせずにはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、私には災いです。自分からそうしているなら、報酬を受けるでしょう。しかし、強いられてするなら、それは、委ねられた務めなのです。」

パウロは「私は福音を告げ知らせずにはいられない」、彼はイエスに「委任された」と言っています。そして、パウロは任務を遂行する召使いに過ぎないので、報酬を得る資格はありません。

(2) 報酬

しかし、まだ彼のための「報酬」はまだあったのです！

18節「では、私の報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときに無償でそれを提供し、宣教者としての私の権利を用いないということです。」

彼の「報酬」とは、必要に応じて自分の「権利」を犠牲にすることができ、そうすることで、彼自身と他の人々の生活において、福音が妨げられることなく効果的に働くのを見ることが出来ることです。
多くの場合、自分の「権利」や「欲求」を進んで犠牲にするとき、私たちは「大きな報酬」を得ることができます。
イエスは神の子としての権利の代わりに、福音の働きの権利を放棄することもできました。イエスが神の子としての権利を放棄することを選ばれたので、今、イエスの福音は私たちの人生の錨となるのです---イエスの赦しと助けを受け入れることによって、私たちの人生は完全に違うものになるのです。

私たちも同じです。例えば、友人だと思っていた人に陰で悪口を言われたとき、私たちは「権利を行使」して、その人と距離を置くことができます。しかし、それは福音の働きを妨げることになり、報酬はありません。だれも私たちの中に神の愛を見ることがないでしょう。
あるいは、「自分の権利を明け渡す」ことを選択し、イエスに、私たちの内に友人に向けて、そして私たちを見る他の人たちに向けて、福音の働きを示すことができるよう助けてほしいとお願いすることもできます。そのとき、私たちは、教会で、家庭で、職場で、学校で、報酬を見いだすでしょう。私たちは人々が福音に出会うのを見るでしょう。

もしあなたがご自分の「権利」をイエスに明け渡していないのなら、そうすることをお勧めします。そうすれば「報酬」を受けることができます。皆さんの人生を通して「福音の働き」が他人に影響するところを見てください。
自分の「いのち」をイエスに明け渡していないなら、そうすることをお勧めします。そうすれば、皆さんの人生全体が、皆さんの内と皆さんを通して働く「福音の働き」となります。今日、そうしてください。

定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

..0

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1825jp

奉仕者募集中！

急募！

1．日本語訳レイアウト&印刷（女性 3 名募集）
月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。
MS Word を使用してひな形に入れてレイアウトし印刷します。
スキル：MS Word の操作ができる方。
英語のスキルは必要ありません。

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org

★クラス 101
教会員になるためのクラス
5 月 11 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: どなたでも

★クラス 201
クリスチャンとして成長する
6 月 7 日(土)1:30pm – 5:30pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 101 を修了した教会員

★クラス 401
クリスチャンとして成長する
6 月 15 日(日)1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール(B1)
参加条件: クラス 301 を修了した教会員

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu